



2024年 新年あけましておめでとうございます



新年あけましておめでとうございます。本年も1年間どうぞよろしく申し上げます。また昨年1年間はお協力を賜り、誠にありがとうございました。昨年12月は中旬までは比較的暖かく、時には夏日となる日もありましたが、クリスマス前から寒波が襲来し冬らしい季節となってまいりました。2024年1月に入ってもこの寒い日は続いてくと思いますが、体調管理には十分気を付けて頂いて、今月も頑張ってみましょう。

昨年12月から第56期に突入し、本年1月で2ヶ月目を迎える事となりました。製品群によって受注量に増減がありますが、頂いている業務を確実にこなし、お客様に喜んでいただけるよう社員の皆様には引き続きのご協力をよろしく申し上げます。製品群の増減については、各部門が連携し社員の方々への業務がしっかりと整えられるよう、部門長の方々には引き続きの調整と運営の方をよろしく申し上げます。そして今期も各計画の達成となるよう取り組んでまいりましょう。

それでは2024年1月の1ヶ月間、どうぞよろしく申し上げます。



社長 太田 聡
編集担当：島

ハラスメントについて（第18回）【テクハラ】

今回はハラスメント11項目として、テクハラ（テクノロジーハラスメント）を取り上げます。



【テクノロジー・ハラスメント】

テクノロジー・ハラスメントとは、ITの知識があまりなく、パソコンやスマホなどのデジタル機器をうまく使いこなせない人に行われるいじめや嫌がらせです。

ITツールを使う能力が高い人が低い人に対し、侮辱したりわざとPC操作が必要な業務を割り振ったりするなどの行為が該当します。

他のハラスメント、特にパワハラとの大きな違いは、パワハラが立場の優位性を利用したハラスメントなのに対し、テクハラはインターネット等が常に身近にあった若年層からデジタル機器に弱い中高年層に行われる点です。部下から上司、同僚間でも起こる可能性があり、誰もが加害者、被害者になりやすいです。

相手の立場を尊重できるようになるといいですね。



2024年

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。皆様方が良い1年になりますように。さて、2024年の干支は辰です。今回は辰年とはどういう年なのか、干支に纏わる話と一緒にご紹介したいと思います。

今年の干支は何だっけ？なんて言葉をよく聞くかもしれませんが、そもそも干支とは何でしょうか。十二支と言えばネズミ、トラなどを含めた12種類の動物を象徴とするものは皆さんご存じかと思います。しかし十二支はもともと動物ではなく、植物が芽吹き、成長していく過程を表すものです。干支はその年の作物の出来をはじめとする吉凶の占いに用いられ、当初は支配階級だけで使用されていました。やがて暦として庶民にも普及させる必要が出てきた際に、庶民にもなじみやすいように、それぞれの過程を指す字と音の似た動物を当てはめ、動物の十二支が使われるようになりました。それでは十干と十二支を合わせた今年の干支を紹介します。それぞれに意味がありますが書ききれないため割愛させていただきます。興味のある方は是非調べてみて下さい。

十干(じっかん)

【甲(きのえ)・乙(きのと)・丙(ひのえ)・丁(ひのと)・戊(つちのえ)・己(つちのと)・庚(かのえ)・辛(かのと)・壬(みずのえ)・癸(みずのと)】

十二支

【子(ね)・丑(うし)・虎(とら)・卯(う)・辰(たつ)・巳(み)・馬(うま)・未(ひつじ)・申(さる)・酉(とり)・戌(いぬ)・亥(い)】

この「十干」と「十二支」を組合わせたものが「干支」と呼ばれるものになり、十干も十二支同様に毎年順番に回っていき、2024年は「甲」の年になります。つまり正式には2024年の干支は「甲辰」(きのえたつ)になります。「甲」は草木が成長することを表す意味があり、勢いが増すことを表します。一方、「辰」は草木の形が整う様子を意味しています。組合わせるとこれからの成長をさらに形作っていくことになるので、努力が実りやすい年と言われています。また辰は神話上の生き物であり、誰が見ても強いという印象から、権力の象徴ともされている生き物です。したがって辰年は力溢れるような、活気のある年になるとも言われています。

編集担当:横井

分岐点 ～徳川家康～

先月号のあらすじ
～武田軍に続けて大敗を喫した家康。勢いに乗る武田軍は次々と領土を広げてくなく異変が起きる～
1573年 武田信玄 死亡
野田城を落城させた武田軍は、勢いそのまま進軍するかと思いきや城に戻った。これも何かの罠かと思った家康、三方原の戦いが頭をよぎります。程なくして城を出た武田軍は奥三河と信濃の境から1ヵ月近く動かずにいたことで、家康の不安は疑念へと変わった。信玄の身に何か起きたのではないか。その後、武田信玄は病により死亡、声明こそは出ていないものの撤退する武田軍を見れば明白だった。思いがけず窮地を脱した家康は安心したに違いない。撤退後、信玄によって領内を蹂躪された家康は、領内の安定化と軍備の再整備を進め、奪われた領の奪還のために動き始める。武田家は信玄の息子である武田勝頼が継ぐ。勝頼もまた、父・信玄がやり残した遠江国への侵攻を成功させるために動き始める。武田家vs織田、徳川家同盟軍の戦いは続きます。翌年(1574年)、信玄すらも討ち取れなかった高天神城を落城させ、勝頼は大きく名声を上げることになる。

1575年 長篠の戦い
明知城、高天神城、足助城を次々と落城させた武田軍。攻撃の手を緩めない勝頼が次に狙いを定めたのが家康の領地で重要拠点になる長篠城でした。武田軍が長篠城を手に入れることで、三河北部全域を家康から奪い取る足掛かりとなる。また三河東部と隣にある遠江へにも侵攻できれば、武田の支配を広げていくことになり、何としてでも落としたい城でした。結果は地形をうまく利用した戦いと入念な準備をした織田、徳川軍の圧勝。この戦いでは織田、徳川同盟軍は初めて鉄砲を用いたため、鉄砲に対する知識が乏しかった武田軍は悪戦苦闘。また、それまで勢いに乗っていた武田軍、勝頼の慢心も影響したとか。この戦いにより多くの名だたる武将が討ち死に、武田家が大きく戦力を落とすことになりました。織田は一度引き上げ、その後も徳川家と武田家の戦いは続きます。
1579年 信康事件
家康は正妻と息子である徳川信康を追放します。次号へ続きます。(どうした家康)

編集担当:横井

編集担当より

今シーズンは早くから流行していたインフルエンザですが、例年通りですと1月～2月が流行のピークとなります。既に今シーズン感染した方もいるかと思えます。冬にインフルエンザA型、春先にインフルエンザB型が流行する傾向があります。A型とB型では当然ながらウイルスの種類が異なるため、冬にA型に感染していたとしても、春先に再度、B型にも感染してしまうことがあります。また、同じA型でも変異型が多くあり、違うA型に再度感染してしまうケースもあるようです。手洗い・うがいといった感染症予防の基本対策は毎日の習慣として、しっかり行っていきましょう。

率直なご意見・ご感想をお待ちしております。
general@apollo-elec.co.jp

発行  アポロ電気株式会社

〒438-0004
静岡県磐田市勾坂中1600-11 磐田さぎさか工業団地
TEL: 0538-38-2228 FAX: 0538-38-2898
URL: <https://www.apollo-elec.co.jp>

編集担当: 管理室

発行日: 令和6年1月1日